

日本語用論学会 Newsletter 第1号

1999年4月28日

日本語用論学会事務局発行

会員の皆様、お変わりありませんか。日本語用論学会Newsletter第1号をお届けします。さる3月22日14時から、龍谷大学「紫英館」にて、第6回運営委員会が開かれました。この号は、そこで討議された内容を基に編集されています。

★第1回大会成功のうちに終了

日本語用論学会第1回大会は1998年12月5日(土) 関西外国語大学で開催されました。あいにくの小雨にもかかわらず、参加者は180人以上にのぼり、語用論に対する関心の高さをうかがわせました。会場校となった関西外国語大学の谷本貞人理事長・学長、谷本栄子副理事長の暖かいご配慮に感謝いたします。

午後1時すぎからコンベンションホールで第1回総会が開かれ、神戸市外国語大学の高原脩教授による開会の辞の後、開催校を代表して、谷本理事長・学長からあいさつがありました。ついで、議事の審議に入り、学会の規約、会長、事務局長をはじめとする役員人事、会計監査委員の人事などが承認されました。会長として関西外国語大学の小泉保教授が選ばれました。

午後2時からコンベンションホール、多目的ホール、本館5階の3会場に分かれ、各会場5件、計15件の研究発表が行われました。どの会場も活発な質疑応答がなされ、熱気にあふれていました。

午後5時30分から、「川柳の語用論」と題して、小泉教授による記念講演がありました。川柳の笑いを語用論的な観点から分析したもので、極めて興味深いものでした。

大会終了後、谷本国際文化センターで懇親会が開かれました。学会の誕生を祝って多くの参加者があり、終始笑い声の絶えないなごやかな会でした。次は、立命館大学での第2回大会で再会することを約して散会しました。

★会員名簿の修正

1999年3月時点の会員(105名)の名簿ができましたが、電話番号や郵便番号などが漏れている方がいます。そこで、同封されている皆さん個人の情報を今一度点検いただき、記入漏れ、あるいは記入のミスなどがある場合、修正の上、お手数ですが、事務局まで送り返していただけないでしょうか。(締め切りは6月末日)。よろしく願いいたします。

★1998年度の会計報告

本学会の会計年度は毎年3月末日となっています。昨年度の会計報告は別紙の通り

です。なお、懇親会の費用は別会計とすることにいたしました。懇親会の収入は117,000円(39名分)で大幅な赤字でしたが、関西外国語大学から援助をいただき収支を合わせることができました。関西外国語大学の御高配に深く感謝いたします。

★研究発表募集

今年度の大会は、12月4日(土)に、立命館大学「平成ミュージアム」で開催される予定です(プログラムは9月に決定)。会場の手配をしてくださいました立命館大学の児玉徳美先生に感謝申し上げます。研究発表につきましては、別紙の「研究発表応募規定」を参照の上、皆さん、奮ってご応募下さい(締め切りは8月末日)。

★『語用論研究』投稿募集

現在、本学会の学会誌『語用論研究』への投稿を募集しています。投稿規定は第1回大会の『プログラム・アンド・アブストラクツ』に記載されているとおりです。多数のご応募をお待ちしています(締め切りは8月末日)。

★学会費の払い込み

このニューズレターとともに1999年度会費の振替用紙が同封されています。大会当日は納入受付が大変混雑しますので、なるべくこの用紙で早めに振り込み下さいますようお願いいたします。

★第2回大会のシンポジウム

第2回大会のシンポジウムのテーマは「語用論のダイナミズム」(司会:山梨正明氏)とする方向で、目下、3人の講師に交渉中です。21世紀における語用論研究の広がりや深化を示す充実したシンポジウムにすべく、鋭意、企画が練られています。どうぞご期待下さい。

★「国際化」への取り組み

ご存じのように、語用論はますます国際性を強めています。そこで、本学会の設立の経緯、規約、活動などについて英語でまとめ、国際語用論学会の本部に送ることになりました。なお、関西外国語大学の余維先生の方から、中国の語用論学会に対して、本学会の活動状況を報告していただきました。「語用論に国境なし」です。

(事務局長 澤田治美記)